

## 福祉のまちづくりフォーラムを開催しました!!

令和2年2月8日（土）に、地域ケア全体会議として、「函館市福祉のまちづくりフォーラム」を開催し、過去最高の**214名**が参加し、誰もが笑顔で暮らせる地域づくりについて考えました。

障がいや児童の関係機関の方にもはじめて参加していただき、新たなつながりも生まれました。

### シンポジウム『共に支え合うまち函館を目指して～つながりが育む支え合い～』

地域で「共に支え合うまちづくり」を実践している方から、取組内容や効果について報告していただき、それぞれの地域でできることを考えました。

#### ずっと住み慣れた地域で生きる ～地域と専門職の連携が創り出す安心～

- 妻の負担を思い「施設に入りたい」と言う障がいがあるAさん。支援者は、施設入所を勧めることがAさん夫婦のためになるのか？と疑問をもつ。
- Aさん夫婦の困りごとを丁寧に聞き、その解決のため、障がいと高齢者分野がつながり、歯科医、民生委員と支援の輪が広がった結果、自宅での生活を継続できた。

#### 地域の集い場づくり ～旗上げ隊の取り組み～

- 認知症になっても我が家で暮らすためには、普段からコミュニケーションがとれる場所が必要との地域の声から生まれた取組。
- 地域住民、医療機関、介護・障がいサービス事業所が旗上げ隊に立候補。
- 合言葉は、旗上げ隊も、楽しく気軽に！
- 地域の人が笑顔で過ごせて、顔見知りの間柄になれるような居場所を目指す。

### 意見交換『福祉のまちづくりのために自分ができること』

えんたくん（段ボールの円卓）を囲んで、様々な立場の人が、日ごろの地域での活動について情報提供したり、今後のつながりの創出について意見交換をしました。

#### 参加者の声 ～福祉のまちのキーワードはつながり～

- 世代を超えた関係を創ることが大切
- 相互の機関の理解を深めること、顔を見て相談できるといいな
- 福祉のまちは、お互いがお互いに関心できるまち
- 1つのこと（出会い）がきっかけではじまるつながり
- 個々の力ではなく、色々な機関と協力して地域活性化を図る
- 福祉のまちづくりの一步は今回の出会いから!!人と人のつながりこそが、まちづくりの基本だと思った



## 福祉のまちづくりフォーラム（函館市地域ケア全体会議）報告書

### 共に支え合うまち函館を目指して ～誰もが笑顔で暮らせる地域づくり～

#### はじめに

函館市では、平成28年度（2016年度）から地域ケア全体会議を開催し、共に支え合うまち函館を目指して、住民、関係機関、地域包括支援センター、行政の総合力による地域づくりを行っています。

令和2年度（2020年度）は、新型コロナウイルスの感染拡大で、残念ながら開催できませんでした。

しかし、地域では、人とのつながりや支え合いを生む取組が数多く行われています。

そのような取組を共有することで、これからもみなさんと一緒に、誰もが笑顔で暮らせる地域づくりに取組んでいきたいと考え、この報告書を作成しています。

#### これまでの主な取組

##### ○ 平成28年度 ～地域づくりの2つの柱と取組方針の共有～

地域ケア全体会議において、以下の2つの柱と3つの取組方針を地域のみなさん、関係機関、地域包括支援センター、行政で共有し、それぞれの立場で取組を進めています。

##### 【2つの柱】

- (1) 認知症の人の理解者・協力者を増やす
- (2) 認知症の人の火災リスクを減らす

##### 【取組方針】

- (1) 必要な知識の普及
- (2) 相談しやすい仕組みづくり
- (3) 火災リスクに気づく人を増やす

##### ○ 平成30年度（2018年度） ～民生委員とケアマネジャーの連携ガイドの発行～

地域ケア全体会議での「地域の支援者とケアマネジャーがもっと連携できればいいね」という言葉がきっかけとなり、民生委員、ケアマネジャー、地域包括支援センター、行政が協働し、「民生委員とケアマネジャーの連携ガイド」を発行し、市内のすべての民生委員とケアマネジャーへ配布しました。

民生委員とケアマネジャーが連携して高齢者を支援する場面が少しずつ増えてきたと感じています。



#### ★ダウンロード★

<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014081900119/files/renkeigaido.pdf>

## 平成30年度 シンポジウム報告事例のその後・・・

### 多世代共生～伝統行事「七夕まつり」をきっかけに（本通）

多世代交流が、地域福祉の担い手の理解促進や高齢者に目を向ける環境づくりに

#### 【フォーラムの報告内容】

- 高齢者の孤立や地域活動の担い手不足という地域課題の解決のため、伝統行事である「七夕まつり」を地域と小学校、PTAで協働して実施し、1年間を通して高齢者と子ども、子どもの保護者がお互いに見守りや声掛けができる体制を作った。



#### 【その後の発展と広がり】

- 町会の清掃活動に、子どもやPTAが参加してくれる。
- 小学校で「高齢者の活躍の場」や「多世代交流の場」となる学校ボランティアの仕組みができる。
- コロナ禍でも、子どもたちが高齢者の健康を願って作った笹飾りを、PTAが高齢者宅に配布するなど、つながりが途絶えないようにしている。
- 「七夕まつり」の取組は、隣接する町会や小学校、PTAに広がり、民生委員も協働した。



### 多世代・多機関で地域活性化～みんながつながるまちづくり（北浜町）

つながりの輪が広がり、顔の見える関係になっていくことが、安心したまちづくりへ

#### 【フォーラムの報告内容】

- 高齢者が地域とつながれるよう、学校や施設などを巻き込み敬老会を開催した。

#### 【その後の発展と広がり】

- 「放課後の居場所がない」という子どもの声に今度は町会が応える。町会館を「学びカフェ」として定期的に開放し、大学生がボランティアで指導をしてくれている。ゆくゆくは高齢者も参加できる活動を行えるよう検討中。
- 地域の企業から、「地域と協働して防災に取り組みたい」との話があり、町会、企業、大学教授がメンバーの防災委員会「タラレバの会」が発足。地域の防災についての検討をはじめた。



★これまでの地域ケア全体会議の詳細はこちらをご覧ください★

<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014081900119/>

「我がまちでも何か取組をはじめたい」「地域と連携して取組を行いたい」などの思いがあるけど、どうしたらいいかわからない。そんな時は、ぜひ『地域包括支援センター』へご連絡ください!!

## 新たな取組

### 「お散歩マップ」&「おたすけ隊」の誕生！（東深堀町会）

コロナ禍で活動量や交流の機会が減少しているという地域課題の解決のため、気分転換を兼ね屋外で取り組める「お散歩」に着目し、高校生のアイデアと病院の疾病予防の視点を盛り込み、東深堀地域周辺の「お散歩マップ」を作成した。

#### お散歩マップができるまで

【STEP1 地域ケア会議で新たなつながりが生まれる】

国立病院機構函館病院と近隣町会で、認知症高齢者模擬捜索を行う。

【STEP2 病院と近隣町会の連携の仕組みができる】

「国立病院機構函館病院と近隣町会の連絡委員会」が発足し、お互いに協力し合えることを話し合う。

【STEP3 お散歩マップの共同作成】

東深堀町会在宅福祉委員会、東深堀町会福祉部、国立病院機構函館病院、函館大学付属有斗高等学校が連携し、「お散歩マップ」を作成する。



顔あわせ



コースの選定



コースの検討



#### 今後の展開

お散歩マップを見ながらみんなで歩く「歩こう会」と高校生有志が高齢者のちょっとした困りごとのお手伝いをする「おたすけ隊」が誕生し、町会と高校が連携し定期的に活動する予定!!

#### 在宅福祉委員長

歩きたいけどなかなか1歩を踏み出せないという人達に、自分の住んでいる街を楽しく歩いてもらいたいという思いで作りました。高校生と一緒に作った本当に楽しいマップです!! 春になったら皆でたくさん歩きたいです。



#### 看護部長

地域の皆さんの予防活動に病院の力を活かしてもらいたいと思い、参加しました。高校生の細やかな気付きに感心し、地域の皆さんの元気パワーに驚き、とても楽しかったです。



#### 高等学校担当教員

以前から地域と交流をしていきたいと模索しておりました。生徒や本校に好印象をもっていただけたこと、生徒を誉めていただいたことがありがたかったです。今後も地域の方とより良い交流ができるよう活動してきたいと思っています。

